

令和3年度事業計画（案）

1 記念館の運営を取り巻く状況

(1) 新型コロナウイルスによる影響について

令和2年度においては新型コロナウイルスの感染拡大により、開館期間の短縮、七宝体験教室・茶会の中止など、記念館の運営も大きな影響を受けた。

別紙1にまとめたとおり入館者数、入館料はともに対前年度比60%減と大きく落ち込んだが、国の「持続化給付金」、京都府の「休業要請対象事業者支援給付金」の交付を受けたため、減収額の相当程度を補うことができた。

一方、年明け以降、緊急事態宣言が再度発出されるなど、感染拡大は継続しており、現時点では終息は見通せない状況である。令和3年度においても前年度に引き続き、記念館運営に大きな影響を与える可能性がある。

(2) 記念館建物の耐震補強並びに修繕工事について

令和元年度において記念館建物の「耐震性能調査」（井手建築研究室）を実施したところ、主屋においては耐震性能（震度6強レベルでの建物崩壊の防止）が不足していることが判明した。その後、引き続き「記念館耐震修理計画調査」（古材文化の会設計室）を行い、耐震補強のために必要な工事並びに現在の破損状況を踏まえた修繕工事の内容等について取りまとめた（別紙2参照）。

築120年以上経過した木造建造物であり、並河靖之が活躍した当時の雰囲気伝える貴重な登録有形文化財であることから、必要資金（約5千万円）を捻出し、早期に工事に着手することが喫緊の課題となっている。

2 令和3年度における事業実施の考え方

(1) 令和3年度においては、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底しつつ、従来どおり展覧会の開催、調査研究・交流事業等を実施する。なお、七宝体験教室・茶会については前年度に引き続き見送ることとする。

また、コロナ感染に伴う今後の国の支援策は現時点では不透明であるが、活用できるものは最大限活用し、あわせて経費節減についても一層努力することとする。

(2) 耐震補強並びに修繕工事については、資金の確保が最大の課題となるが、基本財産（定期預金）の所要額を取り崩して自己資金とするとともに、国、京都府、京都市の補助金の活用を目指すこととしたい。なお、事業スケジュールについては、厳しい環境下ではあるが令和3・4年度の2カ年とし、令和3年度において設計監理業務を、令和4年度において建築工事を実施する。この結果、令和4年度は年間を通じて休館する予定であり、リニューアルオープンは令和5年の春となる。

3 令和3年度における展覧会の開催等

(1) 展覧会の開催

種別	会期	タイトル
春季特別展	令和3年4月2日(金) ～7月18日(日) (79日間)	並河七宝一彩の華 花のモチーフに着目した七宝を紹介しながら、有線七宝技法や多彩な釉薬の彩に堪能していただく。 (展示点数 約70点)
秋季特別展	令和3年9月3日(金) ～12月12日(日) (73日間)	並河七宝を語りつぐ 休館期間を控え、並河七宝の魅力の源泉が、かつて靖之が職住一体で七宝業を営んだ当記念館の空間そのものにあることを七宝や資料等を通じて紹介する。(展示点数 約70点)
開催日数合計		152日間

(2) 建造物・庭園の公開

国の登録有形文化財並びに京都市の景観重要建造物及び歴史的風致形成建造物指定の建造物や京都市指定の名勝庭園を展覧会にあわせて公開する。

(3) 収集・保存

- ・ 並河靖之の製作にかかる七宝作品及び関係諸資料の調査を継続し、価値の高い資料の収集に努める。
- ・ 並河靖之や並河家に関する資料の収集を行う。
- ・ 館藏品及び新たに収集した資料の保存については、収蔵施設において適正・良好に保存し、必要に応じて修理を行う。
- ・ 文化財として高い価値を認められた建造物や庭園を良好に保存管理する。

(4) 調査研究・交流

- ・ 館藏品や寄贈・寄託品についての悉皆調査及び目録の作成を継続する。
- ・ 並河家伝来の美術工芸品や寄託された資料についての研究を行う。
- ・ 国内外における並河靖之の七宝についての所在確認調査を行う。
- ・ 建築や庭園について、当時の使用方法や歴史的変遷などの調査研究を行い、建築学や庭園学からの調査対象としての活用を図る。
- ・ 七宝に対する専門的知識の習得・蓄積に努める。このため先進的な美術館、博物館、大学及び研究機関、有識者などとの学術的交流を図り、研究活動にも積極的に参加する。
- ・ 清水三年坂美術館と共同で七宝に関する研究会を継続する。
- ・ 「記念館だより」を発行する。

(5) 教育普及活動

- ・ 学校教育、生涯教育、博物館、関連団体など地域の諸活動に参加協力する。

(6) その他

- ・ 展覧会のポスター、チラシ、パンフレット等を作成し、他の美術館、博物館、教育施設、観光施設等を通じて広く広報する。
- ・ 新聞、テレビ、雑誌、専門誌などの取材に積極的に協力する。
- ・ ホームページの内容を充実する。
- ・ ミュージアムグッズの製作
- ・ その他財団及び記念館の目的・事業に適合する活動を行う。

別紙1

新型コロナウイルスによる記念館への影響

令和2年に入って新型コロナウイルスが世界的に流行し、日本でも同年4月以降、外出自粛や時短営業を内容とする緊急事態宣言が発出され、国民生活に大きな影響を与えた。また、観光業、飲食業をはじめ経済活動に与えた影響も甚大なものがある。

新型コロナウイルスの感染拡大が当記念館の運営に与えた影響を下記のとおりまとめた。

記

1 特別展の開催

○ 春季特別展「光輝ある並河七宝」

- ・会期 当初4月3日から7月19日までの79日間の予定を68日間に短縮。
(4月12日から6月1日までコロナによる休館。会期末を8月23日まで延長)
- ・入館者数 919人
- ・入館料 608,800円

○ 秋季特別展「並河七宝の開花」

- ・会期 9月4日から12月13日まで当初予定どおり73日間
- ・入館者数 1,746人
- ・入館料 1,214,800円

※ 春季と秋季をあわせ、開催期間は141日間、入館者数は2,665人、入館料は1,870,000円となった(市文化資源保護財団振込分含む)。

(対前年度比)

	令和2年度	令和元年度	比較
開催期間	141日間	157日間	△16日間
入館者数	2,665人	6,295人	△3,630人
入館料	1,870千円	4,396千円	△2,526千円

なお、6月に京都府から「休業要請対象事業者支援給付金」200千円、8月に国から「持続化給付金」2,000千円を受領できたため、入館料の減少を補うことができた。

2 その他の催し

例年5月から6月にかけて行っていた「七宝体験教室」、11月に行っていた「茶会」は中止

別 紙 2

記念館建物の耐震補強並びに修繕工事の概要

1 工事の概要と見積経費

(1) 耐震補強並びに関連修繕工事（41, 421千円）

○ 直接工事費

仮設工事（表屋棚足場、主屋棚足場）

屋根瓦工事（表屋 大屋根葺き替え、主屋 （大屋根、下屋）

木工事、耐震補強工事（屋根野地板撤去・復旧、耐震補強壁、ハネ木補強、水平ブレース、ジャッキアップレベル修正）

左官工事（漆喰塗り替え、じゅらく壁塗り替え、荒壁パネルじゅらく塗）

樋、板金工事

建具工事（1階縁側ガラス戸改修、戸車更新、レール新設）

塗装工事（古色塗）

雨水排水工事（雨水枡新設、雨水排水管）

○ 共通仮設費

○ 諸経費

○ 設計監理費

(2) その他工事（8, 823千円）

○ 直接工事費

2階縁側ガラス戸改修

内部壁塗り替え

畳更新

電気設備工事

○ 共通仮設費

○ 諸経費

○ 設計監理費

2 活用できる補助金制度

- ・ 設計監理費補助金（文化庁（窓口は京都市文化財保護課））
- ・ 京都を彩る建物や庭園補助金（京都市文化財保護課）
- ・ 京都府社寺等文化資料保全補助金（京都府文化政策室）
- ・ 景観重要建造物補助金（京都市景観政策課）

※ いずれの補助金も年間予算限度があるため、他物件の申込状況により、満額補助がでない場合もある。

(6) 事業スケジュール (案) *最短を想定した参考スケジュール

